

こんにちは 保健師です!

保健師：平野 有美



麻疹（はしか）について

保健福祉課保健指導係 ☎52 2211

東京都や埼玉県など関東地方で麻疹が流行しています。麻疹は例年、2月から6月ころに発症し乳幼児に多いですが、今年の流行は10代前半や大人に多いのが特徴です。また、流行のピークはこれから時期になると言われています。そこで、今回は麻疹についてお伝えします。

麻疹の感染について

感染者からのくしゃみやせきなどにより、人から人へ感染（飛沫感染）し、感染力が強いのが特徴です。感染してから発症するまでに10日前後かかります。

症状は…

最初は発熱や風邪のような症状が出ます。そして、口の中の粘膜にコプリック斑という麻疹特有の白く小さい水泡ができ、翌日くらいから全身に赤い発疹が出てきます。



稀に合併症として急性中耳炎、肺炎、脳炎、咽頭炎などを併発する恐れがあるので注意が必要です。また、ごく稀に重症化し死亡にいたることもあります。

子どもの麻疹

麻疹を予防するためにはワクチン接種（予防接種）しかありません。抗体を持っている母親からの免疫は生後3〜4か月程度は有効ですが、その後は徐々に減少し、生後8か月以降になるとほぼなくなってしまうため、1歳を過ぎたらできるだけ早く予防接種をお勧めします。平成18年4月から接種方法が変わり、麻疹と風疹ワクチンが一緒になったMR混合ワクチンの接種になりました。また、接種回数も効果を高めるために2回となり、時期は1歳時と小学校入学前となりました。乳幼児期の予防接種方法について詳しくは保健指導係までご相談ください。

大人の麻疹

麻疹は乳幼児に多い病気ですが、予防接種を受けていない（免疫を持っていない）大人でも感染します。また、大

人が感染すると子どもよりも肺炎や脳炎など重症化しやすいと言われていています。

一度、麻疹にかかった（自然感染）場合には、免疫は強く残りほぼ一生かかることはないと言われていています。一方、予防接種のワクチンで作られる免疫は、長い年月で次第に弱くなり、乳幼児期の1回のワクチン接種だけでは十分な免疫を持ち続けることができないという報告もあります。

また昔は、麻疹の流行がときどきあったため、麻疹ウイルスに出会うと体の中でウイルスを殺すために免疫力が高まり、自然感染と同じだけの免疫力を維持している場合もありましたが、最近はこの効果が期待できないという指摘もあり、近年大人の麻疹感染が増加している一因とも言われています。

乳幼児期に麻疹にかかっているか、予防接種を受けているかを確認し、予防接種を受けていない場合は、接種を受けることをお勧めします。

また、麻疹に感染している人が周囲にいる場合や流行地に行く予定がある方、予防接種を受けたかが不明で心配な方は接種することは可能です。

麻疹の治療

特別な治療法はなく、解熱剤やせき止めなどによる対症療法が中心です。二次感染による肺炎などを予防するため抗生物質が用いられる場合もあります。家庭では、安静にし、脱水にならないよう水分を頻りに補給する、ワクチン未接種の人との接触は避けることが大切です。もし、麻疹の人に接触した場合は免疫グロブリン製剤を注射すると症状が軽く済むか、かからず済みます。これは人からもらった抗体を注射するもので、3か月ほどするとなくなりますが、運良く発症しなかった場合はそれ以後に麻疹ワクチンを受けることも考えましょう。

